

2004年10月20日

新計画策定会議議長 近藤駿介殿

新計画策定会議 委員各位殿

神島優子

策定会議への意見書

基本シナリオ評価については、

シナリオ④（当面貯蔵）を選択していただくよう望みます。

今回の「ご意見を聴く会」開催にあたっては16日にマスコミ報道がされました。ところが、その2日後、原子力委員会が現行の核燃料サイクル路線維持に方針を固めたという報道がありました。その報道に対して原子力委員会が抗議したということもないようですから事実と受け止めざるを得ません。私たち青森県民にとって、きょうの「ご意見を聴く会」は最大の侮辱であると強く抗議します。

現在進行中の策定会議の委員も原子力に関係している方々が多く、その議論は事業者と行政の論理が優先されているように思えてなりません。事業者の言う2010年までに16～18基でプルサーマル実施は「美浜3号機死傷事故」で完全に幻想と化してしまい、六ヶ所再処理工場操業を急ぐ必要はどこにも見当たりません。急ぐ必要がないのであれば、シナリオ④（当面貯蔵）が最も妥当な判断であると思いますし、そのように選択されることを強く希望します。

理由

- 1、 以前、青森県が行った県民意識調査では「原子力施設の安全性に不安を感じている」が81.6%と圧倒的に多く、策定会議で三村知事や末永委員が発言したような「ほとんどの県民が一日も早い再処理操業を望んでいる」という状況ではありません。むしろ、多くの県民は事業者や行政が言うように安全なものなら、電力の巨大消費地である東京に原発も再処理工場もつくればよいと思っています。プルサーマルの見通しすら明確に提示できないまま六ヶ所再処理工場を操業し、使い道のないプルトニウムのために青森の大地と海が放射能で汚されることを望む県民がいるわけがありません。
- 2、 先般の「コスト試算隠し」で国と事業者は嘘をついてごまかさなければ六ヶ所再処理工場の建設すらできなかったことが明らかになりました。「原子力発電は安い」と言ってきたことも、受益者負担を言い出し再処理費用を電気料金に上乗せして徴集しようとしていることで、真っ赤な嘘だとわかりました。原子力発電はほんの一握りの人間によって決められたことであり、あたかも国民が望んだような受益者負担という言い方で、再処理費用まで事業者ではなく国民に押し付けるのは甚だ迷惑な話であり納得できるものではありません。決めるのは私たち、払うのはあなたたち、では国民合意とは到底言えるものではありません。

ません。国民負担を強いるのなら、身銭を切る国民にこそ再処理の是非を問うべきだと思います。

- 3、 今回の原力長計は六ヶ所再処理工場の操業を左右するという点で、過去のそれとは大きく異なります。当然、原子力委員及び長計策定会議委員の方々の責任は今まで以上に大きいものとなります。ところで、16歳になる息子とその友人は「40トンもプルトニウムがあって使うところが決まっていないのに、どうしてまたプルトニウムを取り出すのか」と尋ねます。その答えを見つけられません。さらに、「正しいことがとおるとは限らない」、「誰がやっても同じだ」と言います。策定会議には評論家の方やマスコミの方もいらっしゃいます。さまざまな社会問題に精通していらっしゃると思います。子供たちもテレビ、新聞、雑誌等を通じて、政治・官僚・企業の無責任さを感じています。策定会議の方々には若い世代に「正しいことがとおる」ことを証明していただきたいと思います。そうではなく再処理路線堅持とするなら、使い道がないプルトニウムを取り出すために、自分たちの住んでいるところが放射能で汚染されなければならない理由を青森県の若い世代にきちんと説明すべきだと思います。

以上